

ふすま通信

第 12 号

令和5年1月1日

ふすま同窓会



明けましておめでとうございます

ふすま同窓会会長 野村 一 芳

(人文1回)

皆様には、ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、常日頃から同窓会の活動にご理解とご協力頂き厚く御礼申し上げます。

ふすま同窓会は、ふすま百年の節目を経て新しい時代へと歩みだしました。課題でありました同窓会館の改修については、百年記念事業の一環として行う事ができました。老朽化した屋根や壁面の補修と合わせて事務室と玄関との段差解消等を行いました。断熱効果により冬の寒さは、大分楽になるものと期待しています。是非お立ち寄り下さい。

同窓会活動は、懇親会がコロナ禍で制限されていますが、昨年は「ふすまの日・ふすまの夕べ」を開催することができました。課題としては、色々ありますが中でも参加会員の減少です。各支部の状況も、

山高の先輩が元気な頃は、全国に17支部があり活発な活動を行っていましたが、現在は6支部のみが活動しているに過ぎません。各支部の活性化は基より山大会員が多くいる県に新たに支部を設置してゆく事も必要と考えています。皆様のご支援をお願いします。また、母校山形大学でも、学生時代からの同窓会参加の動機付けを同窓会と共に進めており期待しているところです。

ふすま同窓会は、今後とも会員皆様に参加しやすい皆様のための同窓会として、会員相互の親睦を深め母校山形大学の発展に寄与して参ります。「105年祭」でお会いしましょう。

会員皆様のご健勝と今年が皆様にとって良い年になりますよう祈念しご挨拶いたします。

開 催 予 告

— 総 会 —

期日：令和5年5月20日（土） 16時～
会場：ホテルメトロポリタン山形

— ふすまの日・ふすまの夕べ —

期日：令和5年10月20日（金） 18時～
会場：ホテルメトロポリタン山形



同窓会 HP



Facebook

この通信は、年会費及び終身会費を納入されている会員を中心にお届けします。

第33回ティーデマン・ふすま賞授賞式

第33回（通算52回）ティーデマン・ふすま賞の授賞式が令和4年10月22日（土）理学部1号館1階12番講義室で執り行われた。今年の受賞者は、別掲のとおり、人文社会科学部人文社会科学科卒業、山形大学理工学研究科博士前期課程1年、理工学研究科博士前期課程修了の3名であった。



前列左より、常松、猿田、管、野村、川村、矢作、並河
後列左より、金井塚、郡司、小幡、鈴木、是川の諸氏

式には、学長出張のため代わって、祝辞をいただいた矢作清副学長、審査委員長の並河英紀理学部長、是川晴彦人文社会科学部長、野村芳一ふすま同窓会長、金井塚理学部副学部長、指導教官が授賞式に参加した。授賞式後の受賞者による講演があった。

受賞者と研究項目

- ・川村 菜々子
山形大学人文社会科学部人文社会科学科卒業
「郡山遺跡の考古学的研究」
— I 期官衙の機能と周辺集落遺跡衛生の分析 —
- ・管 佑真
山形大学理工学研究科博士前期課程1年
「IXPE衛星によるブラックホールのスピンの観測可能性」
- ・猿田 周朔
山形大学理工学研究科博士前期課程修了
「噴火模擬実験および数値流体力学に基づく火山岩塊の運動メカニズム」

論文の概要

郡山遺跡の考古学的研究 — I 期官衙の機能と周辺集落遺跡の分析 —

人文社会科学部人文社会科学科卒業 川村 菜々子

郡山遺跡は多賀城以前に創建された陸奥国の役所の跡です。I 期官衙（7 世紀中葉～後葉）は城柵の機能、II 期官衙（7 世紀末～8 世紀前葉）は陸奥国府の機能を有していたと考えられています。これまでの I 期官衙の評価には考古学的な分析に不十分な点が見受けられ、I 期官衙と同時期に形成された集落の性格や官衙との関連も不明確な点が多くあります。本論文では、郡山遺跡と周辺集落遺跡の建物跡と住居跡の分析から、I 期官衙の機能と律令国家の形成・確立期の辺境支配の様相を考察しました。

I 期官衙倉庫群の建物跡からは、重量物の貯蔵が考えられました。一方で中枢区の建物跡からは、外観を整備する目的や政庁の空間を構成する役割がうかがえました。また、官衙内部や北部に複数の移民主体の住居群や、移民と在地住民が混成した住居群をつくり、収容していた様相がうかがえました。郡山遺跡の西に接する長町駅東遺跡と西台畑遺跡の住居跡の分析からは、在地住民主体の特徴が読み取れました。これらの分析から、郡山遺跡 I 期官衙は律令国家の支配拡大のために設けられた城柵であり、多数の在地住民や移民を各場所に分割して統治していたと結論づけました。



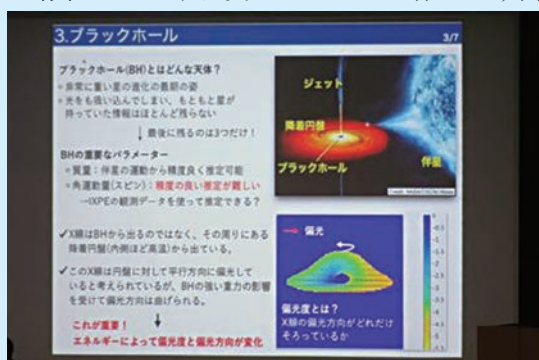
IXPE 衛星によるブラックホールスピンの観測可能性

理工学研究科博士前期課程 1 年 管 佑真

この度は、「ティーデマン・ふすま賞」を頂戴し、誠に光栄に存じます。野村一芳会長はじめ関係各位に対し、改めて感謝御礼申し上げます。

さて、私の卒業論文においては、ブラックホール (BH) の回転の性質を引き出すための手法を確立させることを目的としています。

BHは非常に重力場が強く、そこからは光さえも抜け出せない天体として知られています。そして、このBHは高速に回転している（角運動量を持つ）と考えられています。BHの周りには円盤状のガスが存在しており、実はここからX線という高いエネルギーの電磁波が出てくるのですが、BHの回転



によって周りの空間が引きずられることで、X線の軌跡は曲げられ、さらにX線の「偏光」も影響を受けます。このX線の「偏光」を観測することで、空間の曲がり方やBHの角運動量の情報がわかると言われていますが、まだ実現していません。

そこで私は、昨年打ち上がったX線偏光観測衛星IXPEのデータを使って、BHの角運動量を決定する手法の開発を試みました。卒業論文では、あと一歩のところまで解析手法の完成には至りませんでした。修士課程に進学し、ある程度完成させることができました。

噴火模擬実験および数値流体力学に基づく火山岩塊の運動メカニズム

理工学研究科博士前期課程修了 猿田 周朔

火山岩塊は爆発的噴火に伴って噴出し、弾道軌道を描いて飛行する数cm～mの火山砕屑物である。2014年の御嶽山噴火のように火山岩塊は火口付近で人的、物的な被害をもたらす危険性があり、運動メカニズムの解明は重要である。実際の噴火において火山岩塊はガスの流れによって放出される。そのためガスの流れが火山岩塊の噴出速度や噴出後の飛行に影響を及ぼす可能性があり、火山岩塊の運動とガスの流れの相互作用は重要だと考えられる。本研究では数値流体計算と噴火模擬実験を採用し、火山岩塊とガスの流れの相互作用に注目した。まず数値流体計算では、火山岩塊の体積分率を0.01～0.05で変化させ、火山岩塊がガスの流れから受ける力を計測した。もしも火山岩塊の存在によってガスの流れが変化すれば、火山岩塊がガスの流れから受ける力も変化すると予想される。しかし、本計算では体積分率に伴う明瞭な変化は見られなかった。この結果から火山岩塊がガスの流れに及ぼす影響が小さく、ガスの流れから火山岩塊に対する影響が支配的だと考えられる。一方、噴火模擬実験はTrashcanoと呼ばれる実験を採用し、火山岩塊に見立てた粒径の異なる飛翔体の軌道をハイスピードカメラによって撮影した。さらに画像解析によって50個の飛翔体の三次元軌道を復元し、軌道から飛翔体の噴出速度と加速度を推定した。噴出速度を飛翔体の前面投影面積／質量 (A/m) によって比較した結果、 A/m が増加するほど噴出速度が大きくなる傾向が見られた。仮に火山岩塊の密度が一定だとすると、粒径が小さいほど A/m は大きい。したがって実際の火山岩塊の場合、小さな火山岩塊の噴出速度が大きく、より遠方まで飛行する可能性がある。またガスの内部では加速している飛行体が確認された。この結果は噴出後の火山岩塊の運動にもガスの流れが影響することを示唆しており、ガスの流れを考慮して火山岩塊の軌道を計算することが重要だと考えられる。



ふすま同窓会支援・協賛事業

第50回模擬裁判「care～誰がその“声”に気づけますか～」



50回目の節目となる模擬裁判公演も、ふすま同窓会の多大なるご協賛をいただき、2022年12月9日、10日の2日間にわたり山形テルサホールで開催することができました。皆様の温かい応援及びご支援の賜物と存じ、厚く御礼申し上げます。山形大学模擬裁判実行委員会は、今日までの50年間、諸先輩方の「伝統」を受け継ぎながら、その時代ならではの社会問題を取り上げる「挑戦」の姿勢を一貫してきました。研究成果を地域の皆様に共有し、法律・社会問題への知識を高めるという目的を見失わないように、この先も活動が続けていく使命があると感じています。今回の公演で取り上げたテーマは「ヤングケアラー」です。法律上の定義がなく支援制度が確立していない、いわば「法律の狭間」の存在であるヤングケアラーは、私たち学生と同世代の問題です。なかなか表面化していない複雑な方や児童相談所職員、少年

鑑別所職員といった背景を明らかにするために、今年は県庁職員の関係する機関への取材を徹底的に行い、脚本や演技に反映させました。また、裁判所や検察庁のご助力もいただきながら、通常の刑事裁判とは異なる少年審判を取り上げ、法や裁判と若者の関係性も繊細に描きました。ヤングケアラーの現状とその問題の根深さを、学生の強い意志とともに観客の皆様と考えていただく公演になったと考えております。50回目の節目の公演を終了し、模擬裁判実行委員会はこれから新たな歴史を刻んでいくことになります。今後ともふすま同窓会をはじめ地域の皆様ならびに諸先輩方に、関心をお寄せいただくことのできる活動に励んでまいりますので、あたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(実行委員長：人文社会科学部3年 佐々木裕紀)

ふすま同窓会支援・協賛事業

第12回「安達峰一郎記念世界平和弁論大会」

山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館122教室において、ふすま同窓会が後援し、山形大学認定都市・地域学研究ユニットと山辺町NPO法人の魅力再発見プロジェクトが主催する、「第12回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」が、令和4年11月6日（日）に開催された。全国より、応募された原稿を審査し、予選を通過した県内外の中学生6名、高校生6名が弁論大会に臨み、例年ない高いレベルでの弁論大会となった。最優秀賞には、中学生の部で、山形大学附属中学校1年の伊藤恭禾さん、高等学校の部では、沖縄県立具志



川高等学校2年の又吉優衣さんが受賞した。伊藤さんは「少しの光から」をテーマにして、アフガニスタンで医療活動を行い、井戸や用水路の建設に取り組み農業支援、人道支援に尽力した中村哲医師について語った。

又吉さんは、「他人を想う心」をテーマに、米軍基地を抱える沖縄の現在の置かれた現況と向き合い、核兵器の持ち込みなどへの思いと平和への思いを論じた。

本論文大会は、安達峰一郎博士は、山辺町出身の国際法学者で、アジア人として、初めて常設国際司法裁判所長を務めた。昭和9年12月に心臓病を発症し、オランダの病院で逝去した。オランダは国葬をもって、国際平和に尽力した安達博士の功績をたたえている。安達博士の功績を顕彰し、次世代を担う中学・高校生が博士の精神を学び、平和の意義を考える目的で開催され、12回目を迎えた。ふすま同窓会野村会長が審査員として参画し、優秀者に「ふすま同窓会長賞」として記念の盾と図書券を贈りました。



(H.O)

寒河江 慈恩寺への小旅行

副会長 (山形支部副支部長) 戸石 健二 (人文1回)

ふすま同窓会山形支部では、事業の一つとして、「談話会」を年3回実施。3回のうち、6月は小旅行、11月と翌年の2月初めに、講話を同窓会館で行っています。

小旅行は、山形県内のちょっとした名所旧跡や観光地、そして同窓会の先輩方と何らかのつながりのある会社や地域などに、日帰りで行きます。もちろん、昼は地元の話の蕎麦などを食することになります。

講話の方は、山形大学の先生方や同窓会の先輩や仲間の方から、様々な分野の話を聴くことにしております。大学の現状や専門分野、さらには趣味のことなど幅広い話を聴くことができ、皆さん興味津々です。そのあとの、講師を囲みでの懇親会も楽しみです。

しかしながら、年3回の談話会もすべて、このところのコロナ禍で2年ほど実施できませんでした。

ようやく昨年の令和4年6月に、小旅行として日差しの強い中20名の参加を得て、山形県寒河江市にある「国史跡慈恩寺」を中心に巡りました。もちろん、今回の計画にあたっては、コロナ感染には十二分に留意したことは言うまでもありません。

慈恩寺は、全国から訪れる人が山寺立石寺のように多くはありませんが、訪れるたびにその良さが分かってきます。

小旅行で訪れた時には、「慈恩寺の御堂如来展」が開かれており、その案内として以下のように紹介されています。

「奈良時代に、聖武天皇の勅命により開かれたと伝えられている古刹で、江戸時代の寺領2,800石余は東北随一といわれ、慈恩寺一帯は

国の史跡指定を受けており、境内には、国指定重要文化財の本堂をはじめ、山門、薬師堂、三重塔などが立ち並び、厳かに時を刻んでいます。(以下略)」

鎌倉幕府の政所初代別当、大江広元は、寒河江大江氏の始祖であり、昨年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に登場した人物であります。広元から数えて6代目にあたる元顕からは、一族が鎌倉から離れて寒河江に移り住み、それ以降の建造物や仏像が現在も慈恩寺境内に数多く残っており、国指定、県指定の文化財となっています。

今回は特に、国指定重要文化財である本堂安置の「木造聖徳太子立像」や薬師堂安置の「木造薬師三尊及び十二神将立像」、そして県指定文化財である三重塔などを見て回りました。

さて、この慈恩寺旧境内のふもとに、令和3年5月に史跡のガイダンス施設である「慈恩寺テラス」が開館。慈恩寺全体の予備知識が得られ、子供から年寄りまで一層親しめることになったことは、周知のとおりです。

入場料が無料のこの慈恩寺テラスは、総事業費約8億円の施設で、歴史や文化を映像で紹介する常設展示室、文化財などを映し出す円形シアタールームを備えており、山寺とは一味違った慈恩寺の新たな魅力が増したことは、大変喜ばしいことであります。そして、このテラスと連動した慈恩寺のさらなる発展を期待したいと思います。

なお、今回の小旅行では、地元の歴史にも詳しく、現在、寒河江市教育委員会に勤務されている大宮富善氏(人文9回)の、楽しく博識あふれる案内がすばらしかったことを特記して、最後になりましたが、謝意とさせていただきます。

全国のふすま同窓会の皆様、山形に、ティーデマン碑の山寺に、そして慈恩寺にも足をお運びください。また、大学にも、そして同窓会館にもお越しください。お待ちしております。



ふすま同窓会館の改修工事概要（百年記念祭事業）

阿部 慎一（人文4回）

ふすま同窓会館。そこは、同窓会の事務はもちろんのこと、会員の活動拠点の場であり、集い・交流の場でもあります。念願の独立した会館は、70年記念祭（H2）の募金活動を経て、平成3年に中古住宅・用地を購入し、翌年には事務室・玄関・トイレを増改築して、ようやく落ち着いて事務を行うことができるようになりました。（以前は山大の一隅に仮住まい。）

専用住宅の取得であったため、畳敷きの部分をそのまま集会や会議用に使用し、2階は資料保管や宿泊用の場所となっていました。宿泊実績は1回あったのみと聞いています。

その後、会館は、80年記念祭事業での住宅部分の会議室への改築を経て現在の姿となり、会員の心のよりどころとして様々な活動に活用されてきました。



しかしながら、会館取得後30年が経過し、特に屋根・雨樋の経年劣化が目立ってきました。会館の床も3段階の段差があり、転倒事件も発生。さらには、冬の足元の冷えること……。

そこで、百年記念祭事業の剰余金を一部活用して、長寿命化と安全安心の確保の観点から、会館の改修工事を行うこととなりました。

改修工事は、会館を熟知している(株)シェルターと8月までの2か月間の工期で請負契約を締結し、工事も順調に進み、予定通りの完了となりました。



この度の改修関連事業の概要は、下記のとおりです。

会館改修事業

- ・事務室棟（事務室・玄関・トイレ）の床の嵩上げ（+14cm）を行い、段差解消。
- ・屋根・外壁の全面塗装。屋根は濃緑色で統一。
- ・事務室棟の内壁・天井のクロス張替え。
- ・事務室の床は、白黒基調のモダンなカーペットに張替え。
- ・窓は、アルミの2重窓設置で3重窓に。
- ・天井・床に断熱材吹付。
- ・トイレも、ウォシュレットに近代化。
- ・事務室照明も、蛍光灯8基を、LEDシーリングライト3基に省エネ。



その他の事業

- ・山大正門からまっすぐ西に下り、会館への右折角のブロック塀に、会館への案内板が設置してあります。ここに、同窓会並びに会館の存在を学生会員さんにアピールするため、新たに両学部名を追記。未来に続く交流の糸口になれば……。



- ・同窓会館の南側の敷地に、赤レンガ造りの「炉」があることは、皆さんご存知でしょうか。これは、旧制山形高校の赤レンガ造り図書館が解体（H6）された際に、その一部を同窓会で譲り受け、会館に「炉」の形で残したものです。実際に火入れをしたことは一度も無く、いも煮の鍋置きに活用したことがあるのみと聞き及んでいます。今回、この「炉」を撤去、一部（一對）をモニュメントとして設置し、歴史の流れを目で感じる一助になればと思っています。
なお、「炉」撤去後は、整地して、駐車が可能なスペースが確保できました。ただし、車の進入は、北からの南進のみとなりますのでご注意ください。（会館の電柱移設で北口の進入容易）
- ・会館改修工事終了後には、会館をより身近な存在として親しんでもらおうと、前回（H13）同様、祝賀会を行う計画でした。それも、

コロナ禍で延期となった『納涼会』と併せて、盛大なものにしたいと考えていましたが、またしても“コロナ”によって実現不可。夢、幻に…。それでも、令和4年9月24日（土）には、ささやかながら、お披露目会を開催し、改修後の会館を見ていただいたことで一応の区切りをつけることができました。安堵。
・このたびの改修工事では手をつけていない会議室も、床マットのポリッシャー清掃を行い、歴史を感じる黒い汚れが殆ど消え、明るくなりました。

改修後、毎週水曜日開催の事務局会議も、明るく穏やかな雰囲気、かつ円滑に進められております。

皆様、改装なった同窓会館に、是非、足をお運びください。お待ちしております。



ティーデマン碑供養

コロナ禍ということもあり本年の碑供養は本部・山形支部役員を中心として、9月10日に実施された。山寺のお土産の販売店は、昨年閑散として寂しい状態であったが、今年は少し活気を取り戻し、観光客も多くなってきていた。碑のところにつくと、事務局長の阿部さんが準備をしているところであった。ティーデマン碑供養は、阿部さんの司会で進められた。最後に、清原貫主を囲んで記念撮影をし、今年の碑供養を終えた。

碑建設時に植栽された白樺の木が枯れる心配をしていたが、樹勢がよくなり、多くの葉を茂らせていた。皆さんも山寺を訪れたときには、是非、碑のところにも足を運んで下さい。（H.O）



ふすまの日・ふすまの夕べ

10月21日（金）午後6時よりメトロポリタンホテルにおいて、3年ぶりにふすまの日・ふすまの夕べが開催された。コロナの感染者数もなかなか減少しないなかでの開催であったが、50名の参加者が旧交を温めた。

野村会長は昨年開催された百年記念祭に触れ、予定された記念行事がコロナ禍で思うようにできなかったが、今日ここに元気な皆さんにお目にかかれてうれしいと挨拶をした。

お互いに飲み交わすことは思うようにできなかったが、久しぶりの再会を楽しんでいた。

大声をあげて歌うことはできなかったが、「ああ乾坤」、「みどり樹に」を流し、心の中で斉唱をした。最後に、人文学部第19回卒の佐藤聡彦さんによる万歳三唱で会を終えた。何事もなく済んでほっとしている。（H.O）



事務局だより

“コロナ禍”で、予定・計画事業が相次いで中止となる中、百年記念祭は、1年遅れで、式典のみではありましたが何とか実施することができました。本年度も、5月には「総会（懇親会無し）」が、さらに10月には、「ふすまの日・ふすまの夕べ」が通常の流れでの開催となりました。特に「夕べ」では、例年の半分くらいの参加者でしたが、いつもどおり、にぎやかで楽しいひと時を過ごすことができました。当番幹事の皆様に感謝。普通が最高！（感染対策は不可欠）。その後の体調不良の訴えも無く、ひとまずほっとしました。

話は変わりますが、「ふすま通信」について、危惧していることがあります。それは、多くの会員の行方が分からなくなっていることです。

すなわち、「通信」発送後に、迷子となった発送文書がそのまま『あて先不明』で会館に返送される現象が起きているのです。

大半が、卒業後2～5年目の若い会員であり、

転勤などが主な要因と考えられますが、事務局でのフォローには限界があります。この方々には、7月発刊の「会報」という情報誌も届かないことになります。人と人の絆、交流が強く求められている現代において、大きな課題であると思っています。そこで、この通信を手にしていただいている会員の方々にお願いします。転居等の際には、是非、同窓会事務局まで連絡をよろしくお願いします。行方不明者にならないように。メール・電話で結構です。〈伝統を紡ぎ 未来に続く〉同窓会であるためにも。

さて、会員の皆様、お気づきでしょうか？昨年の会報第70号（R4.7.1）に同封してある会費納入の払込取扱票に、バーコードを付設して、初めてコンビニ収納を可能にしました。コンビニ収納代行機関の手数料は追加になりますが、何より納付しやすい環境づくりが大事であると考え導入しました。会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

阿部慎一（人文4回）

ふん害、臭気対策パートⅡ

前号で理学部放射性同位元素総合実験棟の横道における科学的犬猫ふん害対策事業(?)について紹介しましたが、更に研究が進んでいる状況をお伝えします。



ソーラー式アニマルバリアー機器の設置に加え、新たに南アメリカ原産でドイツ生まれの植物、「コリウス」が登場しています。学名：Coleus canina hybridで、しそ科の半寒性多年草です。実験棟スタッフの乾さんによると、色々検討の結果、この植物が有用であると結論に達し、二つのプランターに植えられた「コリウス」は今日も猫やハクビシンを近付けない様に頑張っています。(H.M)

八 峰 祭

ふすま同窓会が支援している八峰祭が「異世界」をテーマとして、10月22日（土）、23日（日）に3年ぶりに開催された。

今回の開催に当たって、実行委員会の方々は大変苦労したのではないかと思います。体育館で開催される行事の収容人数をどうするかなど多々気を遣って実行に踏み切ったのではないかと。ふすま同窓会でも参加し、芋煮会が何かしようかと話し合っていたが、参加には至りませんでした。早くコロナ前のような、学生生活を送ることができると祈っております。(H.O)



編集後記

第12号をお届けします。昨年度はコロナ禍でいろんな行事が思うように行われませんでした。今年度は多くの行事が行われるようになってきています。しかし、コロナ感染症は第8波とまだまだ猛威を振るっています。早く収束し、今年こそ、以前のように過ごすことができればと思います。

太田裕士（理1回）

ふすま通信 第12号

発行者／ふすま同窓会
山形市東原町 1-9-4
電話／023-633-9927
FAX／023-633-9927
<http://www4.plala.or.jp/fusuma/>
E-mail:fusumadosokai@yahoo.co.jp
印刷所／坂部印刷株式会社